

◆ はじめに ◆

かつて交野を田舎まちと呼んでいたころ、人々はみんなで力を合わせてまちとともに暮らしていました。その後、日本経済の急激な成長とともに、交野でも生活環境は変化し、人と人、人とまちのつながりは薄れていきました。そのような状況にあっても、交野は田園都市と呼び名を変えながら、なんとか自然や農空間を維持してきました。住宅都市と呼ぶころになると、他の都市並みの暮らしを求め、都市基盤の整備や、住民サービスの向上に努めました。身の丈を超え、交野ががんばった時期でした。

いま、世の中の膨らみすぎたあらゆるものが縮小しつつあります。人やお金も減っていきます。交野も負債を膨大にかかえ、縮小せざるを得なくなっています。人口も減少するという推計が出ています。これから、もっと他の都市に追いつくようにがんばるべきなのでしょうか。それともじっと我慢すべきなのでしょうか。どちらも交野としてあり続ける意義とは無関係なことだと思います。

交野が人々の暮らしと深いかかわりを持ちながら、まちとしての価値を持って持続していくためには、かつての、みんなで力を合わせ、まちの身の丈に合った暮らしを取り戻していくことが大事ではないでしょうか。我慢ではなく楽しくつながりのある、ほどよいまちの暮らしを取り戻していくことが。

みんなの力を取り戻すためには、人と人、人とまちのつながりが大事です。しかし、つながりというものは、つくらなければならないとがんばるものではなく、日常の中で自然につくられるもので、そのさりげないつながりこそが、多様な目的に応じて予防的に機能し、いざという時には迅速な対処機能として働くものなのです。まちとともに暮らしていたころにあった日常的なつながりを取り戻していく。たとえ遠回りでも、交野ではもっとも大事なことです。

交野にはまちとのつながりを楽しめる素材がたくさんあります。とびきりの素材ではないかもしれませんが、味わいのある素材が身近にあります。かつての人が楽しんでいたように、こうしたものをつないでいて、さりげない良さの価値をもう一度呼び起こし、その活動を通して人と人、人とまちのつながりを育てていきたいと願っています。これが、交野に合った、交野らしい暮らしの姿だと考えるからです。

ほどよい感じでまちと暮らし、さりげない良さのまちを味わう。交野の発するメッセージがやがて多くの共感を呼び、大きな力となって身の丈の一回り大きな価値ある“かたの”を創生してくれる。この基本構想は、そんな夢を共有し、みんなで実現していく思いのぎっしり詰まった構想です。これからみんなを使って、育てていきます。

2011(平成23)年 春
“かたの”一同

◆ みんなの“かたの”基本構想の目的 ◆

みんなの“かたの”基本構想は、交野に関わるみんなが期待感を共有して、自らが主体的に交野とのつながりの中で暮らしを営んでいくために作成したものです。

この構想は、基本的な思いや方向性、実現のためのしくみは示しているものの、具体的なことやプロセスについては示していません。このため、解釈や手段、そしてゴールに至るまで多様性や意外性を容認するものとなっています。その結果、この構想をもとに対話を重ねていくことで、さまざまに担い手やアイデアがわきあがることを可能にしています。

このようにして、この構想が交野を舞台として様々な人の対話を呼び起こし、共感を育んでいくこと。そして、一步一步と進んでいくにつれて、作成時よりも、どんどん豊かに育っていき、想定し得なかった価値を生み出していくことを大いに期待するものです。

なお、この構想において「かたの」と標記する場合は、ここに込めた思いのもと、未来に向かっていく交野を総括して言い表しています。

◆ みんなの“かたの”基本構想の見方 ◆

この構想は、できるだけ見やすく、わかりやすくするために、日ごろ使うような文章で書くように努めたほか、その説明や例示を図や表などを用いて構成しています。このため、図や表、吹き出しで表示した内容、「みんなの“かたの”の夢」に続く、<暮らしの夢から“かたのサイズ”をめざす像までの流れ>を説明している部分、その他、例示であると示しているところなど、基本構想本文を理解するために資料的に掲載したものがああります。

よって、こうした説明や例示の部分については、基本構想そのものではありませんから、担い手によって、また、その時々の変化などによって変わるものとして見てください。

また、この基本構想を読むと「かたのサイズ」ってなんだろう?」「身の丈って?」「みん活?」など、全体的に「どう受け止め、何をするか」といった問いが浮かぶようになっていきます。それがこの基本構想のもとに“かたの”と暮らし入口となっています。この基本構想から浮かぶ問いに対する具体的な答えは、きっと一人ひとりがそれぞれにもっているはず。それをみんなですりあひ、意見を交わしあひながら進んでいく、そういうふうにしてこの基本構想を活用していきましょう。